

初代「子ども健全育成大使」

なぜのりピー起用？

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド(B&G)財団が、初代「子ども健全育成大使」を女優の酒井法子さんに委嘱した。18日に都内で行われた就任式で、財団側は、酒井さんの過去の薬物事件を踏まえた上での起用と説明。「やり直しがきく社会」への一歩となるか。(片山夏子)

財団「やり直せる社会に」

B&G財団は日本財団の関連団体で、一九七三年の設立。ボートレース収益金で建てたプールやボートハウス、体育館などを地元自



B&G財団の菅原悟志理事長(右)から「子ども健全育成大使」の委嘱状を受け取る酒井法子さん

18日、東京都港区で

治体に寄贈したり、子どもたちの自然体験活動などを応援してきた。

「子ども健全育成大使」はこうした同財団の取り組みをPRするために創設された。任期は二年で、酒井さんは八月から初代大使として、年二、四回、子どもたちとのイベントなどに参加する。交通費などの実費以外は、すべて無償という。

二〇〇九年に覚せい剤取締法違反で有罪判決を受けた酒井さんは、一一年には中国で薬物撲滅のPR活

動にも参加してきた。

就任式で酒井さんは「自分がこんな大役を務めていいのだろうかという気持ちに正直なりました。でも、私にできることがあればと。ありがたうとお受けして、いろいろな活動に楽しく参加させていただきたいと思う」と話した。

財団の菅原悟志理事長は、酒井さんの起用は「あえて」と強調した。「子どもたちには失敗しても何度でもやり直しがきくと教えてきた。社会にはつまずいたり、取り返しのつかないことをしてしまった人もいるが、二度とチャンスを与えないのではあまりにも寂しい社会。やり直す機会を

与え、心を入れ替えて、また社会のためにその分、頑張ってもらえばいい」との狙いを説明する。

放送プロデューサーのデューブ・スペクター氏は「薬物防止活動や非行少年の立ち直り支援などのボランティアではないので、なぜ酒井さんなのかは分からないが、セカンドチャンスという概念はいい」とする。過去に薬物依存に苦しんだ英人気歌手のエルトン・ジョンさんや、万引問題を起こした米国の有名女優ウィノナ・ライダーさんなどが人生の復活を遂げた例を挙げながら、「(欧米と比べて)日本のテレビ業界では、みんなにチャンスが与えられていないと感じる」と指摘する。

薬物依存者の回復を後押しする民間施設「茨城ダルク」の岩井喜代仁代表は

「プラスかはこれからの仕事次第」

「失敗したら、もう出ていけない場所が増える怖さがある。私も代表を引き受けるときは覚悟した。でも、薬物依存から回復して、受けた仕事をまっとうできるならすばらしいことだ。恥を忍んでということもあるだろう。大役を受けた酒井さんにも、酒井さんを選んだ財団にも頑張ってもらいたい」とエールを送った。

東京大学の仁平典宏准教授(社会学)も「戸惑いや葛藤を抱えながらも社会の役目を果たしている姿を、子どもたちの前にさらしていく方が子どもたちには伝わるのでは」と期待しながら、指摘する。「やり直しを許さない今の空気は明らかにおかしいし、それを打ち破るメッセージを明確に出すという意味ではいいことだと思う。むしろこれからの仕事次第で、この任命が『健全育成』にとってプラスの意味を持つかが決まると思う。その意味で酒井さん自身も任命した財団も、責任は重大だと思